

## 研 修 区 分 表

平成30年 2月1日作成

科目・教科	研修時間			計	到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通 学	通 信	実 習		
1 職務の理解 (6時間)	6	—	—	6	<p>(到達目標)</p> <p>研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境でどのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持ち、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。</p> <p><b>指導の視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研修課程全体(130時間)の構成と各種研修科目(10科目)相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率的に学習できるような素地の形成を促す</li> <li>視聴覚教材等を工夫するとともに、必要に応じて見学を組み合わせるなど、介護職が働く現場や仕事の内容を、出来る限り具体的に理解させる</li> </ul>
(1) 多様なサービスの理解	3	—	—	3	<p>(講義)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護保険サービス(居宅・施設)の理解</li> <li>介護保険外サービスの理解</li> </ul>
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	—	—	3	<p>(講義)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容</li> <li>居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ</li> <li>ケアプランの作成からサービスの提供に至るまでの一連の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携</li> </ul> <p>(演習)</p> <p>視聴覚教材DVD等により介護職を理解するとともに、グループワークを通して介護職が働く現場や仕事の内容を理解させる</p>
2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)	9	—	—	9	<p>(到達目標)</p> <p>介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点およびやってはいけない行動例を理解している</p> <p><b>指導の視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な事例を複数示し、利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す</li> <li>具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化防止・遅延化に資するケアの理解を促す</li> <li>利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す</li> <li>虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す</li> </ul> <p>(修了時の評価ポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる</li> <li>虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる</li> </ul>

(1) 人権と尊厳を支える介護	3	—	3	<p>(講義)</p> <p>(1) 人権と尊厳の保持 ①個人としての尊重、②アドボカシー、③エンパワメントの視点、④「役割」の実感、⑤尊厳のある暮らし、⑥利用者のプライバシーの保護</p> <p>(2) ICF 介護分野における ICF</p> <p>(3) QOL ①QOL の考え方、②生活の質</p> <p>(4) ノーマライゼーション ノーマライゼーションの考え方</p> <p>(5) 虐待防止・身体拘束禁止 ①身体拘束禁止、②高齢者虐待防止法、③高齢者の養護者支援</p> <p>(6) 個人の権利を守る制度の概要 ①個人情報保護法、②成年後見制度、③日常生活自立支援事業</p> <p>(演習) 具体的な例を示し、自立支援・尊厳・虐待の概念を理解する</p>
(2) 自立に向けた介護	4	—	4	<p>(講義)</p> <p>(1) 自立支援 ①自立・自律支援、②残存機能の活用、③動機の欲求、④意欲を高める支援、⑤個別性/個別ケア、⑥重度化予防</p> <p>(2) 介護予防 介護予防の考え方</p> <p>(演習) 具体的な例を示し、自立支援と介護予防の考え方を理解する</p>
(3) 人権に関する基礎知識	2	—	2	<p>(講義)</p> <p>①人権に関する基本的な知識、②同和問題等</p>
3 介護の基本 (6 時間)	6	—	6	<p>(到達目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職に求める専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。</li> <li>・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事が出来る。</li> </ul> <p><b>修了時の評価ポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。</li> <li>・介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。</li> <li>・介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。</li> <li>・生活支援の場では出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。</li> <li>・介護職におこりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる。</li> </ul> <p><b>指導の視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な限り具体的例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。</li> <li>・介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれら一人で対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することが重要であると実感できるように促す。</li> </ul>
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5	—	1.5	<p>(講義)</p> <p>(1) 介護環境の特徴の理解</p>

				<p>①訪問介護と施設介護サービスの違い、② 地域包括ケアの方向性</p> <p>(2) 介護の専門性</p> <p>①重度化防止・遅延化の視点、②利用者主体の支援姿勢、③自立した生活を支えるための援助、④根拠のある介護、⑤チームケアの重要性、⑥事業所内のチーム、⑦多職種から成るチーム</p> <p>(3) 介護に関する職種</p> <p>①異なる専門性を持つ多職種の理解、②介護支援専門員、③サービス提供責任者、④看護師等とチームとなり利用者を支える意味、⑤互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、⑥チームケアにおける役割分担</p>
(2) 介護職の職業倫理	1.5		1.5	<p>(講義)</p> <p>(1) 職業倫理</p> <p>①専門職の倫理の意義、②介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）、③介護職としての社会的責任、④プライバシーの保護・尊重</p> <p>(演習)</p> <p>職業倫理に関するグループワーク</p>
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5		1.5	<p>(講義)</p> <p>(1) 介護における安全の確保</p> <p>①介護に結びつく要因を探り対応していく技術、②リスクとハザード</p> <p>(2) 事故予防、安全対策</p> <p>①リスクマネジメント、②分析の手法と視点、③事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町への報告等）、④情報の共有</p> <p>(3) 感染対策</p> <p>①感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断）、</p> <p>②「感染」に対する正しい知識</p>
(4) 介護職の安全	1.5		1.5	<p>(講義)</p> <p>(1) 介護職の心身の健康管理</p> <p>①介護職の心身の健康管理が介護の質に影響、②ストレスマネジメント、③腰痛の予防に関する知識、④手洗い・うがいの励行、⑤手洗いの基本、⑥感染症対策</p> <p>(演習)</p> <p>具体的な事例を示し、介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解する</p>
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）	9		9	<p>(到達目標)</p> <p>介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員としての最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる</p> <p><u>修了時の評価ポイント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる</li> <li>介護保険制度や障害者総合支援制度の概要、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる</li> <li>例：税が財源の半分であること、利用者負担割合</li> <li>ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる</li> <li>高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる</li> <li>医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士等が行う医行為などについて列挙できる</li> </ul> <p>(指導の視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護保険制度・障害者総合支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する</li> <li>利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障</li> </ul>

				害者総合支援制度、その他制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す
(1) 介護保険制度	3		3	<p>(講義)</p> <p>1 介護保険制度</p> <p>(1) 介護保険制度の背景および目的、動向</p> <p>①ケアマネジメント、②予防重視型システムへの転換、③地域包括センターの設置、④地域包括ケアシステムの推進</p> <p>(2) 仕組みの基礎的理解</p> <p>①保険制度としての基本的仕組み、②介護給付と種類、③予防給付、④要介護認定の手順</p> <p>(3) 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割</p> <p>①財政負担、②指定介護サービス事業者の指定</p> <p>(演習)</p> <p>介護サービスを利用するまでの手続き（申請方法・介護認定・サービス利用）について、事例を通して想定しながら介護保険制度を理解する</p>
(2) 医療との連携とリハビリテーション	2		2	<p>(講義)</p> <p>①医行為と介護、②訪問看護、③施設における看護と介護の役割・連携</p>
	1		1	④リハビリテーションの理念
(3) 障害者総合支援制度およびその他制度	3		3	<p>(講義)</p> <p>(1) 障害者福祉制度の理念</p> <p>①障がいの概念、②ICF（国際生活機能分類）</p> <p>(2) 障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解</p> <p>介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで</p> <p>(3) 個人の権利を守る制度の概要</p> <p>①個人情報保護法、②成年後見制度、③日常生活自立支援事業</p> <p>(演習)</p> <p>個人の権利を守るために、事例を通して制度を理解する</p>
5 介護におけるコミュニケーション技法 (6 時間)	6		6	<p><b>到達目標</b></p> <p>高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。</p> <p><b>修了時の評価ポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。</li> <li>・家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。</li> <li>・言動、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。</li> <li>・記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。</li> </ul> <p>(指導の視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心理機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。</li> <li>・チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。</li> </ul>
(1) 介護におけるコミュニケーション	3		3	<p>(講義)</p> <p>(1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割</p> <p>①相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮</p> <p>②傾聴、③共感の応答</p> <p>(2) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーションの特徴</p> <p>①言語的コミュニケーションの特徴、②非言語的コミュニケーションの特徴</p> <p>(3) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際</p>

				<p>①利用者の思いを把握する、②意欲低下の要因を考える、③利用者の感情に共感する、④家族の心理的理解、⑤家族へのいたわりと励まし、⑥信頼関係の形成、⑦自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、⑧アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い</p> <p>(4) 利用者の状況・状況に応じたコミュニケーション技法の実際</p> <p>①視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、②失語症に応じたコミュニケーション技術、③構音障害に応じたコミュニケーション技術、④認知症に応じたコミュニケーション技術</p> <p><b>演習の方法</b></p> <p>利用者と家族に対するコミュニケーション技術の実技体験</p>
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	3	3	<p>講義</p> <p>(1) 記録における情報の共有化</p> <p>①介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、②介護に関する記録の種類、③個別援助計画書(訪問・通所・入所・福祉用具貸与等)、④ヒヤリハット報告書、⑤5W1H</p> <p>(2) 報告</p> <p>①報告の留意点、②連絡の留意点、③相談の留意点</p> <p>(3) コミュニケーションを促す環境</p> <p>①会議、②情報共有の場、③役割の認識の場(利用者と頻回に接触する介護職に求められる観察眼)、④ケアカンファレンスの重要性</p> <p><b>演習の方法</b></p> <p>事例を示し、実際に報告書を作成し記録の機能と重要性を学ぶ。</p> <p>事例を示し、グループ別に疑似カンファレンスを実施する。</p>	
6 老化の理解 (6 時間)	6	6	<p>(到達目標)</p> <p>加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。</p> <p><b>修了時の評価ポイント</b></p> <p>・加齢・高齢化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる</p> <p>例：退職による社会的立場の喪失感、運動機能の低下による無力感や羞恥心、感覚機能の低下によるストレスや疎外感、知的機能の低下による意欲の低下等</p> <p>・高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴および治療・生活上の留意点、および高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる</p> <p>例：脳梗塞の場合、突発的に症状が起り、急速に意識障害、片麻痺、半側感覚障害等を生じる等</p> <p><b>指導の視点</b></p> <p>・高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身につけることの必要性への気づきを促す</p>	
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	3	<p>(講義)</p> <p>(1) 老年期の発達と廊下に伴う心身の変化の特徴</p> <p>①防衛反応(反射)の変化、②喪失体験</p> <p>(2) 老化に伴う心身の変化と日常生活への影響</p> <p>①身体的機能の変化と日常生活への影響、②咀嚼機能の低下、③筋・骨・関節の変化、④体温維持機能の変化、⑤精神的機能の変化と日常生活への影響</p> <p><b>演習の方法</b></p> <p>老化に伴う心身の変化の特徴をグループで話し合い発表する</p>	
(2) 高齢者と健康	3	3	<p>(講義)</p> <p>(1) 高齢者の疾病と生活上の留意点</p> <p>①骨折、②筋力の低下と動き・姿勢の変化、③関節痛</p> <p>(2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点</p>	

				<p>①循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）、②循環器障害の危険因子と対策、③老年期うつ病症状（強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが前面に出る、うつ病性仮性認知症）、④誤嚥性肺炎、⑤病状の小さな変化に気付く視点、⑥高齢者は感染症にかかりやすい</p> <p><b>演習の方法</b></p> <p>高齢者の疾病とその生活上の留意点について、列挙する</p>
7 認知症の理解 （6時間）	6	6	6	<p>（到達目標）</p> <p>介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断基準となる原則を理解している</p> <p>修了時の評価ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる</li> <li>・健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる</li> <li>・認知症の中核症状と行動・心理症状（BPSD）等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる</li> <li>・認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認知症の特徴についても列挙できる。</li> <li>・認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。</li> <li>・認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について主要なキーワードを列挙できる 例：生活習慣や生活様式の継続、なじみの人間関係やなじみの空間、プライバシーの確保と団らん場の確保等、地域を含めて生活環境とすること。</li> <li>・認知症の利用者とのコミュニケーション（言語、非言語）の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方（良い関わり方、悪い関わり方）を概説できる。</li> <li>・家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて列挙できる</li> </ul> <p>指導の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるように工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す</li> <li>・複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。</li> </ul>
(1) 認知症を取り巻く状況	1	1	1	<p>講義</p> <p>認知症ケアの理念</p> <p>①パーソンセンタードケア</p> <p>②認知症ケアの視点（できることに着目する）</p>
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	2	2	<p>講義</p> <p>認知症の概念</p> <p>認知症の原因疾患とその病態</p> <p>原因疾患別ケアのポイント</p> <p>健康管理</p> <p>①認知症の定義、②もの忘れとの違い、③せん妄の症状、④健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア）、⑤治療、⑥薬物療法、⑦認知症に使用される薬</p> <p>演習の方法</p> <p>認知症の利用者の心理・行動を実感できるように事例検討する</p>
(3) 認知症に伴うこととかからだの変化と日常	2	2	2	<p>講義</p> <p>（1）認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴</p> <p>①認知症の中核症状</p> <p>②認知症の行動・心理症状（BPSD）</p> <p>③不適切なケア</p> <p>④生活環境で改善</p> <p>（2）認知症の利用者への対応</p> <p>①本人の気持ちを推察する、②プライドを傷つけない、③相手の世界に合わせる、④失敗しないような状況を作る、⑤すべての援助行為がコミュニケーションであると考え、⑥身体を通じた</p>

				コミュニケーション、⑦相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、⑧認知症の進行に合わせたケア
(4) 家族への支援	1		1	講義 ①認知症の受容過程での援助、②介護負担の軽減（レスパイトケア） 演習の方法 事例を通して、認知症高齢者と暮らす家族の疑似体験をする。ならびに認知症高齢者と暮らす家族との対応を疑似体験する。
8 障害の理解 (3 時間)	3		3	(到達目標) 障害の概念と ICF、障害者福祉の基本的考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。 <b>修了時の評価ポイント</b> ・障害の概念と ICF について概説でき、各障害の内容・特徴および障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる ・障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる <b>指導の視点</b> ・介護において障害の概念と ICF を理解しておくことの必要性の理解を促す ・高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す
(1) 障害の基礎的理解	1		1	講義 (1) 障害の概念と ICF ①ICF の分類と医学的分類、②ICF の考え方 (2) 障害者福祉の基本理解 ①ノーマライゼーションの概念 演習の方法 ICF とノーマライゼーションの概念をグループで話し合い、発表する
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識	1		1	講義 (1) 身体障害 ①視覚障害、②聴覚、平衡障害、③音声・言語・咀嚼障害 ④肢体不自由、⑤内部障害 (2) 知的障害 ①知的障害 (3) 精神障害（高次脳機能障害・発達障害含む） ①統合失調症・気分（感情障害）、依存症などの精神疾患 ②高次脳機能障害 ③広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害 (4) その他の心理の機能障害 演習の方法 各障がいの特性と介助上の留意点を振り返る
(3) 家族の心理、かかり支援の理解	1		1	講義 家族への支援 ①障がいの理解・障がいの受容支援 ②介護負担の軽減 演習の方法 家族の障害受容のプロセスを事例により学ぶ
9 ところとからだのしくみと生活支援技術 (75 時間)	68	—	7	75 (到達目標) 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部又は全介助等の介護が実施出来る。 <b>指導の視点</b>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実践に必要なところからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚教材を使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す。</li> <li>・サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。</li> <li>・例えば、「食事の介護技術」は「食事という生活の支援」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるように促す。さらに、その利用者が満足する食事を提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。</li> <li>・死に向かう生の充実と尊厳ある死について考える事が出来る様に、身近な素材からの気づきを促す。</li> </ul> <p>(修了時の評価ポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙出来る。</li> <li>・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則(方法、留意点、その根拠等)について概説でき、生活の中の介護予防及び介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。</li> <li>・利用者の身体の状態に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。</li> <li>・人の記憶の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。</li> <li>・家事援助の機能と基本原則について列挙できる。</li> <li>・装うことや整容の意義について解説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行なう事ができる。</li> <li>・体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機能や様々な車椅子、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行なうことができる。</li> <li>・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行なうことができる。</li> <li>・入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行なうことができる。</li> <li>・排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行なうことができる。</li> <li>・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され指示に基づいて介助を行なうことができる。</li> <li>・ターミナルケアの考え方、対応の仕方、留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携(ボランティアを含む)について列挙できる。</li> </ul>
<p>【I 基本知識の学習】</p> <p>&lt;11 時間&gt;</p> <p>(1) 介護の基本的な考え方</p>	5	5	<p>(講義)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理念に基づく介護</li> <li>・法的根拠に基づく介護</li> </ul> <p>(演習)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例を示し、理論と法的根拠に基づく介護の重要性を学ぶ。</li> </ul>
<p>(2) 介護に関するところのしくみの基礎的理解</p>	3	3	<p>(講義)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習と記憶の基礎知識</li> <li>・感情と意欲の基礎知識</li> <li>・自己概念と生きがい</li> <li>・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因</li> <li>・ところの持ち方が行動に与える影響</li> <li>・からだの状態がところに与える影響</li> </ul> <p>(演習)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例による老化や障害を受け入れるところの変化を学ぶ。</li> </ul>



(3) 介護に関するからだのしくみ基礎的理解	3		3	(講義) ・ 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・ 骨・関節・筋肉に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ・ 中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ・ 自立神経と内部器官に関する基礎知識 ・ ところとからだを一体的に捉える ・ 利用者の様子の普段と違いに気づく視点 (演習) ・ 事例による老化や障害による体の変化を学ぶ。
【Ⅱ生活支援技術の学習】 <52時間> (4) 生活と家事	3		3	(講義) ・ 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ・ からだの状態がこころに与える影響 (演習) ・ ある高齢者の生活歴と習慣を踏まえ、必要な生活支援を考える。
(5) 快適な居住環境整備と介護	3		3	(講義) ・ 快適な居住環境に関する知識、高齢者、障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 (演習) ・ ある高齢者の居住空間と住宅改修をグループで検討する。
(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3		3	(講義) ・ 整容に関する基礎知識、整容の支援技術 (実技) ① 歯磨きの実技体験②衣類の着脱(片麻痺)の実技体験
(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7		7	(講義) ・ 移動・移乗に関する基礎知識、様々な移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援 (実技) ① 体位変換・シーツ交換(褥瘡予防)②車椅子の操作③移乗介助(車椅子⇄ベッド) ④移動練習(杖・歩行器)
(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7		7	(講義) ・ 食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 (実技) ① 嚥下体験②食品形態の違いを体験③とろみによる水分摂取④食事介助の実技体験(体勢別・嚥下障害のある人)
(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7		7	(講義) ・ 入浴、清潔保持に関連した基礎知識、様々な入浴用具と整容用具の活用方法、新しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 (実技) ① 入浴介助の実技(一般浴槽・中間浴・シャワー浴・特浴)②身体の洗い方と手浴・足浴の実技

(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7			7	(講義) ・排泄に関する基礎知識、様々な排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 (実技) ① 排泄介助(車椅子⇄トイレ、ベッド⇄ポータブルトイレ) ②ベッド上での尿器等の介助、オムツ交換の手順と方法③陰部洗浄の方法
(11) 睡眠に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護	3	—	—	3	(講義) ・睡眠に関する基礎知識、様々な睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところ (実技) ① 睡眠環境(体位・寝具等)の体験
(12) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	5			5	(講義) ・終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援 (演習) 高齢者の終末期の過程と留意する点を学ぶ。
(13) 施設実習(より効果的な研修となることをめざし実習を7時間実施する)			7	7	実習の内容 さらにより効果的な研修となることをめざし施設見学実習を実施する。介護にあたっては、利用者の個性や人間関係を理解するための着眼点を理解できるようにする。また、介護目標を踏まえて、自立に向けた介護の考え方やプロセスを理解できるようにする。
科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
【Ⅲ生活支援技術演習】 <12時間> (14) 介護過程の基礎的理解	6	—	—	6	(講義) ・介護過程の目的・意義・展開 ・介護過程とチームアプローチ (演習)
(15) 総合生活技術演習	6			6	(講義)(演習) ・事例による生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得 ・事例の提示→ところとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題分析 事例は、要支援2程度、認知症、方麻痺、座位保持から複数選択して実施
10 振り返り	4			4	(到達目標) ○研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る <指導のポイント> ①在宅、施設の何れの場合であっても、「利用者の生活拠点に共に居る」という意識をもって、その状態における演習を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す。 ②研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させた上で、利用者の生活の支援をする根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す

				<p>③終了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身につけるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるように促す。次のステップに向けての課題を受講生が認識できるよう促す</p> <p>④介護職の仕事内容や働く職場、事業所等における研修の実例等について、具体的なイメージを持たせるような教材の工夫、活用が望ましい。(視聴覚教材・現場職員の体験談・サービス事業所における受講者の選択による実習・見学等)</p>	
(1)振り返り	3	—	—	3	<p>(講義)(演習:グループワーク)</p> <p>○研修を通して学んだこと、○今後継続して学ぶこと、○根拠に基づく介護</p> <p>(①利用者の接する時の注意点、②利用者の日常の支援を行うで大切なこと、③研修を踏まえて、自分自身が介護に携わるとしたらどのようなことを大切にしていけるのか?④⑤全体を通じての質問、わからないこと、⑥虐待・不適切なケアについて、⑦根拠に基づく介護について グループで話し合い、言語化し再度確認を行う。発表後 講義説明)</p>
(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1	—	—	1	<p>(講義)</p> <p>○継続的に学ぶべきこと</p> <p>○研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等の実例の紹介</p>

※記載内容は、要綱の別紙2の内容を網羅したものとすること。

※講義と演習は一体的に実施すること。「目標、内容等」は目次を設けて分かりやすく記載すること。

なお、科目9の(6)から(11)および(15)の実技演習は、実技内容等を記載すること。

※時間配分の下限は30分単位とする。